

◎高校生のインターンシップを受入て 40 年目を迎える／氷上高校の就業体験実習

長野県農業経営者協会南佐久支部が兵庫県立氷上高等学校の就業体験実習の受け入れを行なった。

同支部には、J A長野八ヶ岳管内の組合員や隣接する町村の組合員など 36 名の会員がおり、氷上高校の生徒を受け入れている。

氷上高校では校訓である「開拓者精神」を考え学ぶ機会として毎年実施しており、生徒らは農家各戸へ 2~3 名に別れて訪れ、7 泊 8 日間受け入れ先の家族と家庭生活をともにした。

実習内容は高原野菜の生産や花き栽培、酪農など受け入れ先によって様々だが、生徒らは朝早くから作業に取り組んだ。

受入式では不安そうにしていた生徒らだったが実習を終え「農家の皆さんやアルバイトの方が、やさしく迎えてくれて嬉しかった」「家族のありがたみが良くわかった」などと感想を話し、農家との別れを惜しんでいた。

氷上高校の児玉敏男校長は「野菜栽培の先進地であり、開拓によって開かれた川上村や南牧村の地で、農業を体験し“開拓者精神”を学んでほしい。また、親元を離れ農家の方と家庭生活を共にすることで自立の精神を学んでほしい」と期待を寄せる。

同支部が氷上高校の受け入れを始めて、今年で 40 年目を迎え述べ 2,500 人を超える生徒が実習を経験している。同支部長の高見澤辰雄さんは「この体験実習を経験した生徒たちの、人生の 1 ページとして良い思い出になれば嬉しい」と話す。

節目の年となる今年は、農業科と生活課の生徒 73 名が、2 班にわかれて実習に参加した。川上村と南牧村で行われた受入式では、氷上高校からそれぞれの村へ、40 周年を記念して記念碑と黒松の目録が贈られた。



実習修了式の様子